

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



平成21年の夏に行われた茅小屋金山遺跡測量調査から引き続いて今年度は、これまで現地への到達すら困難だった「内山金山遺跡測量調査」が実現しました。今調査では新発見も多く、今後の鉱山史研究の進展に大いに役立つものと期待される成果を得ました。その成果発表の場として、2月27日(日)、多くの関係者の皆様のご参加をいただき「内山金山遺跡測量調査報告会」を開催いたしました。

現地測量から始まり、鉱山臼に代表される遺物の搬出など、測量調査スタッフの熱意と体力なしには不可能だった「内山金山遺跡」の状況報告、遺跡の調査状況、また、湯之奥金山遺跡の活用と今後の可能性について、それぞれの視点からその目指すべき取り組みについてパネルディスカッションも行われました。(関連記事4～6頁にて特集)

博物館が伝えたいもの

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一夫

湯之奥金山博物館が「伝えたいもの」、そのミッション(使命)について今回は触れてみたいと思います。すでにご承知の通り、平成元年から3年までの間、旧下部町は「ふるさと創生事業」の一環として、伝承や幻ではなく本物の歴史を解明し、「生涯学習」や「地域活性化」に役立てたい、という経過の中で湯之奥中山金山遺跡の総合的学術調査が実施され、16世紀初頭の初源期山金山の歴史が解明されました。そして、そのガイドンス館として平成9年に「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」が開館、遺跡の方も同年「甲斐金山遺跡」(黒川金山・中山金山)として国指定史跡に指定されるなど、急展開しました。

日本における国指定史跡は、古いところから挙げると、①8世紀の宮城県涌谷の黄金山産金遺跡(砂金採掘)、に16世紀初頭から始まった②甲斐金山遺跡(黒川金山・中山金山…初源的山金山)、17世紀の江戸期の大規模な産銀活動が行われた③石見银山、同じく④佐渡金銀山など、4か所が挙げられますが、その産金史上の一角に位置づけられました。

全国の鉱山関係の博物館・資料館は自然科学系が主流ですが、当館は数少ない人文科学系の「金山史を伝える歴史博物館」として誕生しています。当館の使命はこうした中で金山史をガイドンスする館という位置づけにあります。

これまで全国から子供から高齢者に至るまで、有料入館者257,705人(平成23年3月29日現在)

を迎えています。カウントしていないイベント参加者を合せば、延べ30万人は超えているでしょう。その経済効果も高く地域活性化に役立っています。

近年、世界遺産登録が実現した石見银山遺跡、同暫定登録の佐渡金銀山遺跡でも、調査が進み金銀山史研究も年々高まりつつあります。

湯之奥金山でも昨年の茅小屋金山、今年度の内山金山の測量調査(別掲記事あり)が行われ、中山金山と合せて、わが国における初源期山金山(鉱石からの産金)の姿がより鮮明に見えてきていますが、現段階では日本の金銀山史を通史で捉えたガイドンスが必須となってきています。古代からの砂金時代～戦国期の山金時代(露天掘り・ひ押し掘り)～江戸期の本格的な坑道掘り時代へと、その変遷を通史で捉える時代へと変化してきています。

今や甲斐金山だけのガイドンスでは時代遅れ感が強く感じられるようになってきました。

このため「当館が伝えたいもの」は、日本の著名な金銀山遺跡などの遺跡見学会(臨地研究)での学習はもとより、加えて金銀産金資料を展示する全国の博物館等との強い連携を図ることで、より広域的な人の流れ、技術の伝播という「歴史ドラマ」を捉え、伝えていくことの必要性を痛感しています。日本列島という視点の中で、甲斐金山を見直す必要の時期に至ったということになります。

活動報告 ①

内山金山遺跡測量調査報告会開催

2月27日(日)

昨年の夏からおよそ5か月間にわたって険しい山中の内山金山遺跡の測量調査が行われました。新たな発見が多い実りある調査となりましたが、両金山の調査の集大成として、2月27日(日)午後1時より「内山金山遺跡測量調査報告会」を開催いたしました。プログラム内容は次のとおりでしたが、多くの方のご参加をいただきまして、無事に終えることが出来ました。

今頁では、報告会の様子をお伝えするとともに、内山金山遺跡特集とさせていただきます。

～【当日プログラム】～

「湯之奥金山遺跡の歴史的概要について」

湯之奥金山博物館館長 谷口一夫氏

学術調査報告①「内山金山遺跡測量調査報告」

㈱テクノプランニング 森谷忠氏

学術調査報告②「内山金山遺跡の調査と課題」

帝京大学山梨文化財研究所 宮澤公雄氏

特別発表

「金粒子付着資料(中山金山遺跡出土遺物)の科学調査からみた金製錬技術」

山梨県立博物館学芸員 沓名貴彦氏

学術調査報告③「鉾山調査報告～多田・生野銀山の事例として」

松江工業高等専門学校教授 久間英樹氏

パネルディスカッション「湯之奥3金山と今後の鉾山研究」

この日、会場は博物館2階映像シアター。谷口館長より開式の言葉とともに、湯之奥金山の全体について概要をお話いただいた後、森谷忠氏(テクノプランニング)より、ご報告をいただきました。森谷氏は、今回の調査の調査員として、テラスの確認から、2本の坑道発見(坑道概略図は5頁に掲載)という偉業を、他の調査スタッフと協力しながら率先してやってくださった調査スタッフの一人です。

内山金山の調査についてはとにかく“大変な山”という一言に尽きます。どれだけこの山が厳しい山なのか、そしてそこでの調査がどれほど大変で、そのような場所から20キロ～30キロもの重量がある鉾山白を搬出することが、またどれだけ大変なことか。自分の身を安定させることすら困難な場所ですから、その作業の厳しさは経験した者でないと分からないかもしれません。しかし、そのようなことはおくびにも出さずに黙々と作業を進めてくださいました。



内山金山から発見された97点のうち、搬出された鉾山白、全63点。

現場踏査や資料搬出を行い、他の誰よりも一番現場をよく見て知っている森谷氏からは、坑道の映像なども織り交ぜて、現場の状況や、どのような機材・手法をもって測量調査が行われたのかなどのお話をいただきました。

次にお話いただいたのは、調査に幾度かご同行くださり、新発見の石塔の拓本なども採ってくださった宮澤公雄先生に「内山金山測量調査の成果と課題」と題してお話いただきました。

先の中山金山遺跡総合学術調査でも調査スタッフとして発掘もされており、湯之奥金山全体をすでによくご存じの上で、テラス、石臼の分布、坑道・石造物の新発見事項とともに、これらの今回の成果をどのように解釈していくのか、そしてこれからの課題についてなども非常に分かりやすくお話をいただきました。宮澤先生は発表の中で「発掘調査のなされている中山金山と、測量調査が完了した茅小屋金山・内山金山によって、戦国期金山のあり方を考察する基礎資料が提示されたと同時に今後の研究発展に期待したい」と締めくくられました。

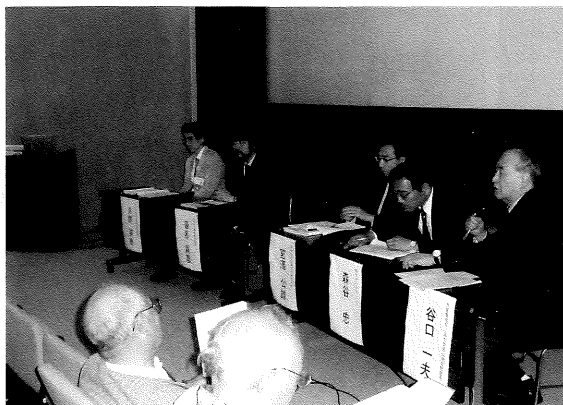


次に研究発表としてお話いただいたのは、各地の遺跡から出土した陶磁器類の付着物について研究を進めている杵名貴彦学芸員です。「金粒子付着資料(中山金山遺跡出土遺物)の科学調査からみた金製錬技術」と題して、実際に中山金山から出土した金粒がついた土器を事例に、黒川金山の金粒付着土器と比較しながら、そこにどんな成分が付着している、そのことが何を意味するのかなど、研究データから発表してくださいました。

講演の最後は、各地の鉱山における坑道探査を手がけている島根県・松江高専の久間英樹教授に「鉱山調査報告～多田・生野銀山を事例として」と題して、他鉱山での開発ロボットによる調査事例や、実際にそのロボット探査によって導き出せる事、またこれからまだまだ解明すべき課題が山積している湯之奥金山をはじめ、各地の鉱山研究にどのように応用できるかなど、軽妙にお話しくださいました。

久間先生は、松江高専が所有しているレーザー加工機で作成した、中山金山の実物大坑道模型も作成、報告会前日から設置して下さって

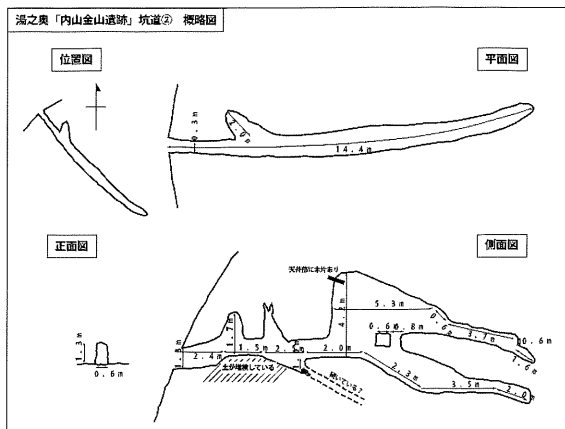
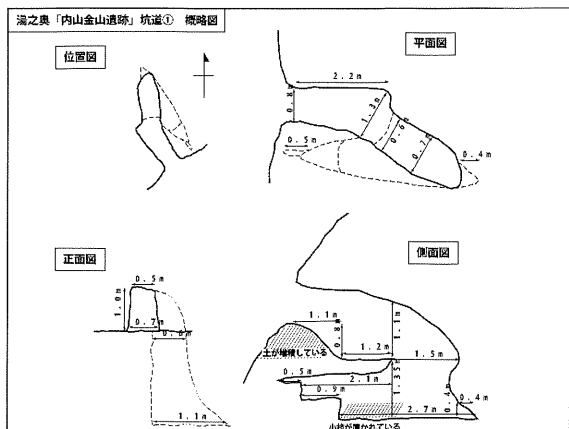
り、この坑道は、左の写真のような形状で、中山金山の中でも比較的大きめのもので、中腰くらいでくぐれます。映像シアターを出てすぐのスペースに設置されていますので、ご来館の際にはひとくぐりしてみてください。

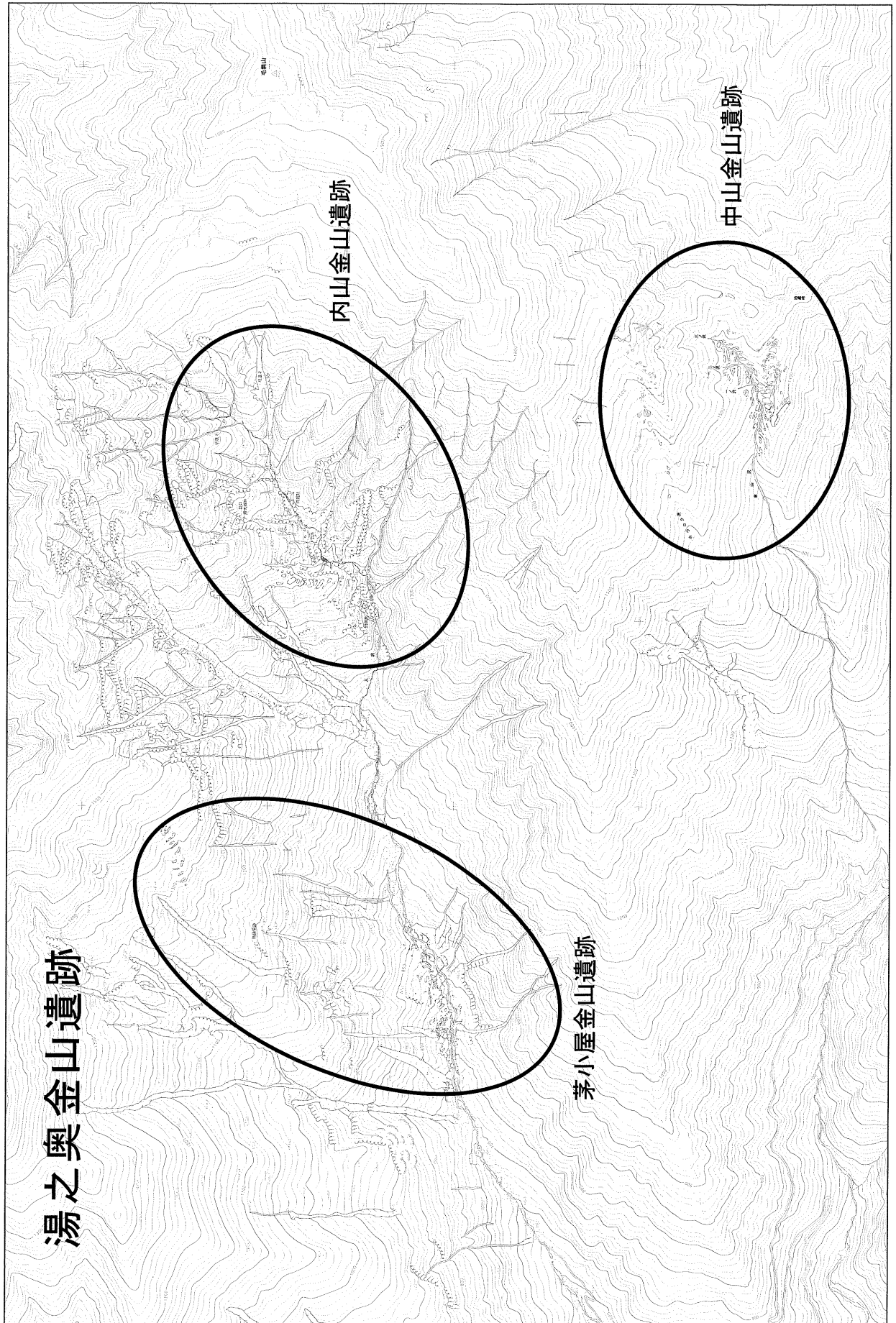


すべての発表が終わった後で、発表くださった先生方をパネリストとしてお招きし、それぞれの立場・知見から「湯之奥3金山と今後の鉱山研究」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。およそ30分程の時間でしたが、議論を交わしながら、会場からの質問にもお答えいただく形で進めていきましたが、調査後の保存とその活用方策についてが、議論の焦点となりました。

足かけ2年の茅小屋・内山金山測量調査の、ひとまずの区切りとしての報告会も盛会のうちに幕を閉じることが出来ましたが、引き続き、内山金山からの鉱山白の資料集成と、各地の鉱山白の資料集成に着手していくことで、当館が現在の研究課題としている「空白の産金史」を埋める作業の一役となり、今後はこの調査成果を様々な形で発信・検証していくと同時に、館独自の踏査を進め、鉱山史研究の進展に寄与していきたいと考えています。

内山金山の新発見坑道①(左)、坑道②(右)の形状概略図





活動報告 ②

平成22年度 公開講座開講座終了

1月22日(土)、2月19日(土)

“黄金の国ジパングの深層を探るシリーズ④”として、「8～16世紀 空白の産金史の実像を探る」という大テーマのもと、昨年の10月から平成22年度公開講座を開催して参りました。

新年最初の講義となった1月は身延山大学教授の柳本伊左雄先生に「荘厳を飾る～練金と金箔の技術を知る」というテーマでお話いただきました。柳本先生の軽妙な話しぶりとお話を交えての講義に、聴講者も飽きない様子でした。

2月の講義最終を飾ったのは、砂金・砂白金学会の広瀬義朗氏。「老脈型金鉱床」をテーマに、多くの文献データや、自身の実地踏査に基づいて、鉱床的な知見から砂金の生成や純度のことについても解説され、聴講者からは、長年疑問に感じていた金のことについて改めて分かった、という意見が多く寄せられました。また、遠方からも多くの方々がおいでくださり、会場は満席となり、最後を飾るにふさわしい大変有意義な講演会となりました。

今般1月、2月の講義を終え、平成22年度公開講座が好評のうちに閉講いたしました。次年度10月からの公開講座も計画しておりますので、楽しみにしててください。



1月 柳本伊左雄先生



2月 広瀬義朗氏

キラキラ！シルバーアクセサリー作り体験教室第2弾 2月13日(日)

2月の連休最終日、「シルバーアクセサリー作り体験教室」の第2弾が行われました。この日も、午前と午後の部の2回行われ、20名近くの参加者で賑わいをみせました。銀を溶かしたり、伸ばしたり、叩いたり、普段、個人ではなかなか体験できない作業を、大人も子どもも皆さん楽しそうに行っていました。また、講師役の峡南高校の生徒の皆さんも、2回目という事もあってか、慣れた様子で手際良い指導を行っていました。

各回とも約2時間という短い時間でしたが、先生や生徒の皆さん、そして参加者のアイデアが重なって、素敵なアクセサリーが出来上がりました。



南アルプス桃源交響楽団によるスプリングコンサート開催！ 2月20日(日)

公開講座を終えた翌日の日曜日、午後2時から南アルプス桃源交響楽団の皆さんの演奏による「日曜コンサート」が開催されました。

演奏曲目は、モーツァルト・クラ5重奏、弦

楽合奏(さくら、雪、カノン)、テレマン、トランペット協奏曲～4曲、アンダーソン、トランペット吹きの子守歌、サンサーンス、象と白鳥(編曲 チューバソロ)、ダニーボーイ(編曲 トロンボーンソロ)、シュトラウス・ラデツキー行進曲と、約20名で編成された楽団の皆さんが奏でる音楽は多様で、約50分ほどのコンサートには、会場に入りきれないほど多くのお客様がおいでくださりました。楽団メンバーの一人でもある谷口館長も、この日は黒服に身を包み、トロンボーンソロとして「ダニーボーイ」を披露し、会場から温かい拍手が送られるなど、昼下がりのひとときを音楽の調べでお楽しみいただきました。



川尻金山のモリブデン鉱石をご寄贈いただきました

このたび、地元身延町に在住の北条貴人様より、地元の川尻金山のモリブデン鉱石をご寄贈いただきました。北条様は、応援団にもご入団くださっており、開館当初から当館の事業にも広くご協力くださっている方のお一人です。「随分前から持っていたものですが、自分が持っているよりも博物館にあった方がいいと思うので」と、ご寄贈くださったものです。北条様のご厚意に応えるべく、今後末長く保存活用し、併せて展示公開まいります。

「しもべ黄金の足湯」オープン



2月2日から、博物館専用駐車場敷地内にオープン致しました「しもべ黄金の足湯」。オープンから約1か月が経過し、早くも多くの方々のご好評をいただいています。博物館にご来館の際は、下部の湯を手軽にお楽しみいただくべく、入ってみてください。博物館売店では「しもべ黄金の足湯オリジナルタオル」も販売中。旅の記念にもなりますヨ。是非ご利用ください。



「しもべ黄金の足湯」の特徴

- 湯温39度～42度（気象条件により変化します）
- “くるぶしから指3本分の深さ”に設定された浅めの浴槽が、実は健康に良いのです！

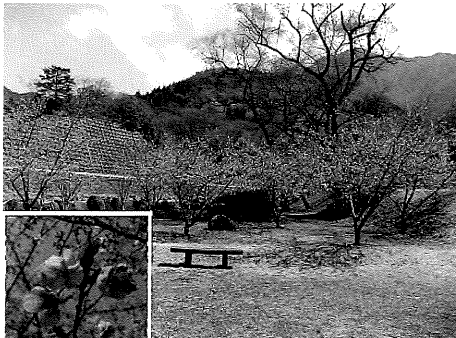
【足湯利用時間（無料）】午前8時30分～午後6時まで

（博物館の開館時間に合わせてご利用いただけます。）

※博物館が休館日の場合、博物館専用駐車場はご利用できません。

リバーサイドパーク駐車場をご利用ください。

身延町に河津桜をご寄付いただきました



このたび、身延町出身・伊東市在住の神宮司剛様より、身延町に河津桜をご寄付いただきました。神宮司さんは以前、3町合併の年にも河津桜をご寄付くださっており、その桜はリバーサイドパークの敷地内に植樹され大きく育っています。毎年3月から4月にかけての時期、公園の一角は濃いピンク色に包まれ、温泉郷を訪れる皆様の目を楽ませてくれています。このたび寄贈された30本の苗木は、育っている河津桜の横と、メロディブリッジ両脇に植樹されました。何年か先、この苗木が成長して花を付けるようになれば、また皆の心を和ませてくれるはず。とても楽しみです。

博物館日誌（平成22年9月～12月）

| | | | |
|---------|---------------------------|-----------|--------------------------|
| 23日(水) | 観桜期無休開館期間開始（～4月5日まで） | 12月14日(水) | 山梨日日新聞取材 |
| 17日(木) | ボランティアガイドの会研修 | 15日(木) | 休館日 |
| 16日(水) | 休館日 | 18日(日) | 身延山大学職場研修、常盤大学課外授業 |
| 9日(水) | 休館日、受水槽点検 | 20日(月) | 古文書教室 |
| 7日(月) | 休館日 | 22日(水) | 休館日 |
| 3日(木) | 画展資料貸出 | 23日(木) | 『館だより53号』発行 |
| 2日(水) | 神宮寺剛氏より桜苗木寄付、山梨中銀へ企画展資料貸出 | 25日(土) | 門松作り |
| 3月1日(火) | 休館日 | 27日(日) | 内山金山石臼搬入、博物館仕事納め |
| 28日(月) | 豊小6年 | 1月2日(日) | 博物館仕事始め |
| 27日(日) | 内山金山遺跡測量調査報告会 | 5日(水) | 休館日 |
| 24日(木) | 魅力作り協議会研修 | 8日(土) | 小正月行事・お山飾り |
| 23日(水) | 休館日 | 12日(水) | 休館日 |
| 21日(月) | 古文書教室 | 13日(木) | 山日印刷取材・撮影、温泉郷魅力作り協議会 |
| 20日(日) | スプリングコンサート | 15日(土) | どんど焼き |
| 19日(土) | 身延小3年課外授業、文化庁視察 | 19日(水) | 休館日・館内メンテナンス |
| 18日(金) | 第70回公開講座・広瀬義朗氏 | 20日(木) | 山梨中銀金融資料館資料打合せ |
| 16日(水) | 休館日 | 27日(土) | 第69回公開講座 柳本伊左雄先生、親子映画観賞会 |
| 15日(火) | ジオラマ清掃メンテナンス | 24日(水) | 泉観光部他中国視察団来館 |
| 13日(日) | 第2回シルバリアックセサリ作り体験教室 | 25日(木) | 古文書教室 |
| 12日(土) | 豊小課外授業下見 | 26日(金) | 甲府CATV撮影 |
| 10日(木) | 温泉郷魅力作り協議会 | 30日(月) | 休館日 |
| 9日(水) | 休館日 | 2月2日(水) | 山梨県知事選挙投票日（於多目的ホール） |
| 8日(火) | JR職員研修、西嶋小課外授業 | 8日(火) | 黄金の足湯完成竣工式、休館日 |

館からお知らせ

～★5月から夏時間に変更となります★～

開館時間：午前9時～午後6時まで（受付は午後5時30分まで）

休館日：毎週水曜日（祝日に当たる場合はその翌日）

夏時間は5月から9月までとなっております。なお、ゴールデンウィーク期間中を含む**4月28日(木)～5月10日(火)**までは無休開館です。

～計画停電中の開館時間について～

この度の東北関東大震災において、被災された皆様、ご家族、関係者の皆様方には心より深くお見舞い申し上げます。

震災影響に伴う博物館開館時間中の計画停電時は、休館時間帯となります。ご利用・ご来館いただく皆様方には、大変ご不便とご迷惑をおかけいたしますが、何とぞ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【例】停電時間が午前9時～正午12時までと発表された場合→**午前9時～12時まで休館。以降、午後6時まで開館。**

停電時間が午後3時20分～午後7時までと発表された場合→**午後3時～終日休館。**

また、博物館駐車場敷地内の「黄金の足湯（利用時間：午前8時30分～午後6時）」も停電時間中、および停電復旧後からの約2時間は、ポンプアップ機能がストップするためご利用いただけません。※実際の停電時間は、毎日の発表と多少前後する場合があります。また、今後の状況により、全体の対応が変わる可能性もございます。その他、不明な点がございましたら当館へ直接お問い合わせください。

編集後記

この『館だより56号』が皆様のお手元に届く頃、辺りは桜が満開になっている頃かもしれませんね。少し気温が低いことから例年よりも開花が遅れている桜ですが、博物館の河津桜は現時点で大分花開き、桜の周辺が濃くてきれいなピンク色の空気に包まれているようです。

この度の震災で被災された方々、ご家族、関係者の皆様には、心からお見舞い申し上げます。被災地域には博物館がお世話になっている方々も大勢おられ、今もなお、その安否が気に掛かります。

そうした中で、なんとか普段どおりの“日常”を過ごせている私たちが、なんらかの形で元気や勇気を広く伝えていければと思っていますが、今、私たち個人が出来ることは何か、博物館として出来ることは何か、思案する日々です。

日本全体が正念場、とにかく頑張らなければ、前に進まなければ。そんな思いとともに新年度を迎えますが、優雅なイメージの桜が、ずいぶんとたくましく咲いているように見えるのは、そんな思いで見るからかもしれません。「がんばろう、日本」のフレーズが、思わず口をつきます。

博物館だより 第56号 平成23年3月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html 博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp